



鉄道遺産を活用した 留萌の新しい拠点づくり ～付属資料～



るもてつサポートメンバー
2025年3月24日



- | | |
|--|-----|
| ① 廃線後におけるまちづくりの課題と機会 | P02 |
| ② 留萌市の観光資源及び鉄道遺産分布 | P03 |
| ③ るもてつサポートメンバーの概要(メンバー、検討会議経過) | P06 |
| ④ 提言(1)「道の駅るもい」とD61移設を含む「鉄道遺産」を組み合わせた活用策 | P07 |
| ⑤ 提言(2)道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」における鉄道展示魅力施設化 | P15 |
| ⑥ 提言(3)留萌市全体及び隣接自治体と連携した鉄道遺産を核とした誘客促進 | P19 |
| ⑦ 実現にむけたロードマップ(実施可能なスケジュールと活用財源案等) | P24 |
| ⑧ 【追加提案】新交流複合施設への鉄道遺産活用 | P26 |
| ⑨ 有識者意見(北海道観光資源創造センター代表理事 永山茂) | P27 |

① 廃線後におけるまちづくりの課題と機会



1 提言書の背景

留萌は近隣の炭鉱で採掘された石炭を全国へ出荷する拠点として発展。鉄道と港は、石炭の物流を支える重要なインフラとして、市民が繰り返し国へ要請するなどして建設された“まちの想いの結晶”。最盛期は、国鉄留萌本線、羽幌線に加え、留萌鉄道、天塩炭鉱鉄道の4線が乗り入れる鉄道の要所であった。しかし、時代の変化によって需要が減少し、令和5年3月末をもって留萌本線留萌～石狩沼田間が廃線となったことで、現在の街を作り、支えてきた市民のシンボルである鉄道が市内から完全に姿を消した。

私たちは、街の発展を支えた鉄道の歴史を風化させず、鉄道遺産を活用し、後世に語り継ぐことが街にとって重要であると考え、さらに、線路によって分断されていた南北の往来が可能になったことを好機と捉え、“鉄道がさらに次の留萌をつくる”ことをめざすため、市から呼びかけに呼応し、街を愛する者と鉄道愛好家が集い「るもてつサポートメンバー」を立ち上げ、様々な活用策を検討、提言書を取りまとめた。

2 廃線後におけるまちづくりの課題と機会、提言の方向性

〈廃線に伴う課題認識〉

街の発展の象徴が喪失

- ・かつての街の発展の象徴であり、賑わいの中心だった鉄道が無くなったことで住民の意識に空白ができる懸念。

歴史の継承が困難

- ・廃線により鉄道の痕跡が全く無くなることで、次世代に街の歴史が継承できなくなる懸念。

域外からの来訪手段が自動車一択に

- ・まちづくりに重要な「稼ぐ観光」や「移住促進」に必要な街への来訪手段の選択肢が減り、自動車一択に絞られる。

〈機会〉

恵まれた環境を活かし、観光で稼ぐ街へ

- ・市として「道の駅るもい」を新たな誘客のシンボルに設定し、通過型観光地から脱却をめざす。モンベルアウトドアヴィレッジるもい構想。
- ・線路で分断されていた道の駅と中心部が往来可能に。

価値ある鉄道遺産の存在

- ・留萌本線遺産に加え、全国でも希有な蒸気機関車D61が現存。

〈廃線後のまちづくりに向けた提言の方向性「めざす姿」〉

新たな「街のアイコン」の誕生、歴史の継承

- ・「道の駅るもい」に「鉄道遺産」を掛け合わせることで、街の歴史も包含した新たな「街のアイコン」をつくり、観光客だけでなく多くの市民が集い楽しみ賑わう拠点づくりを進める。
- ・廃線後も鉄道が街の拠点に保存され活用されることにより、後世への歴史の継承を可能にするとともに、全世代がこれからも鉄道とともに発展した街の歴史に触れ、愛着が沸く街に。

誰もが訪れたいと思う滞在型の観光地へ

- ・鉄道遺産をより希少価値のあるものへ育てることで、「道の駅るもい」が誰もが訪れたい魅力ある拠点となり、留萌市全体はもとより、エリアー一体が稼げる滞在型観光地へ進化。
- ・これにより廃線後も鉄道が街の産業を支えるコンテンツに。

新交流複合施設整備により完全に新たなステージへ移行

- ・旧留萌駅に今後整備される新交流複合施設においても鉄道遺産の活用を行うことで、「道の駅るもい」と「鉄道遺産」の活用により生まれる相乗効果が最大化され、住民も来訪者も集う真の賑わいの中心地が完成。
- ・拠点から市内各地へヒト・モノ・カネが流れていく新しい街の産業発展が実現し、留萌を愛するすべての人の想いが紡ぐ。

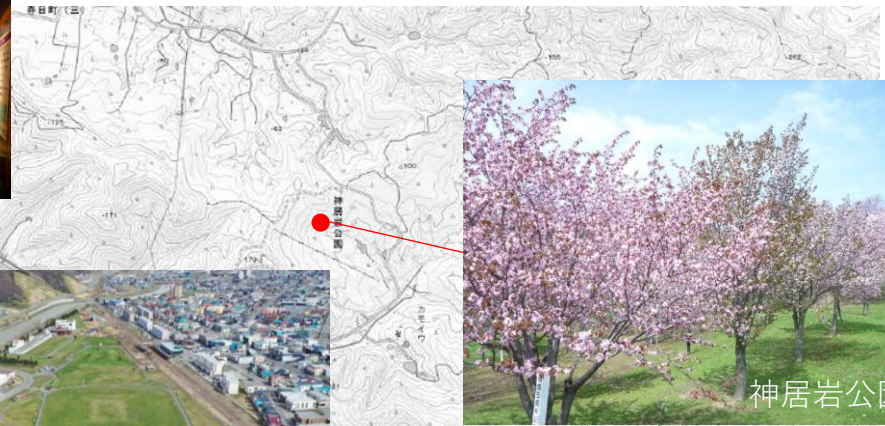
2 留萌市の観光資源及び鉄道遺産分布



黄金岬



海のふるさと館



神居岩公園



ゴールデンビーチ



道の駅るもい



千望台



礼受牧場

500 m

2 留萌市の観光資源及び鉄道遺産分布



旧大和田駅舎



旧藤山駅舎



駅舎は令和6年に倒壊し、現在は更地となっている

鉄橋①
(国道の御料橋と並行)

鉄橋③
(国道の樽真布橋と並行)

鉄橋④
(国道の橋橋と並行)

鉄橋⑤
(国道峠下橋と並行)



旧幌糠駅舎



鉄橋② (国道の幌糠橋と並行)



旧峠下駅舎跡地

2 km

2 留萌市の観光資源及び鉄道遺産分布





1 留萌鉄道遺産活用検討ワーキンググループについて

線路や蒸気機関車含め、留萌市内に点在している鉄道資源を活用した観光客誘致策等について、鉄道愛好家等の意見を反映したものとするため、市内在住者等による「るもてつサポートメンバー」を中心に下記のとおり検討を実施。

2 るもてつサポートメンバーについて

小林 涼太郎、阿部 武大、村上 均、橋場 輝明、笠井 佳祐、対馬 真澄、國京 三喜、大磯 祥一、海東 侑汰、浅野 侑利、前北 美和（計11名）

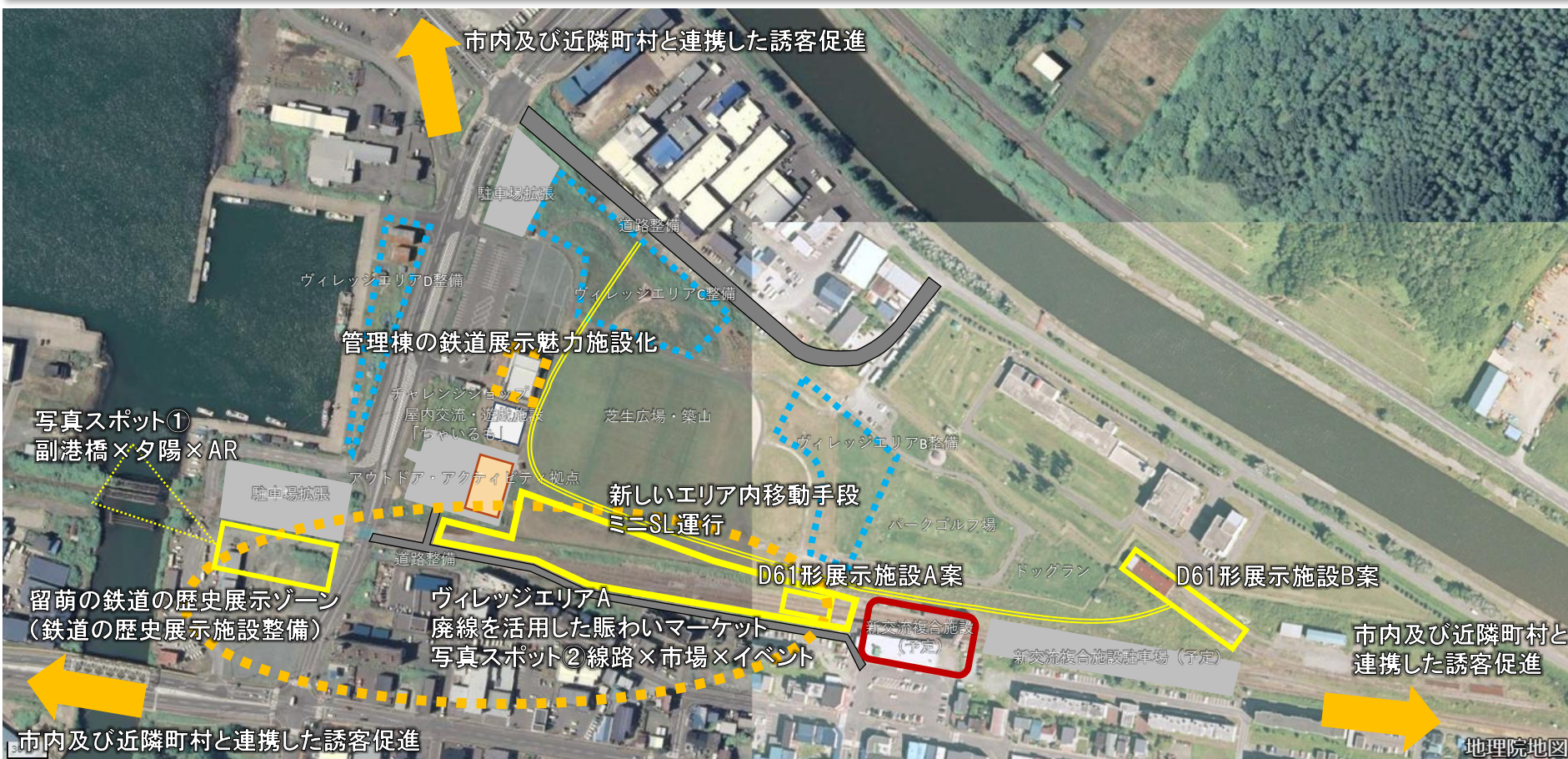
3 これまでの検討の経緯

令和6年12月7日	第1回ミーティング
	・道の駅エリア内にある線路等の活用方法について
令和6年12月21日	第2回ミーティング
	・留萌市内に点在している鉄道資源の活用策 ・留萌市内の周遊につなげるモデルルートや周遊ルートの設定
令和7年2月15日	第3回ミーティング
	・仮に旧駅舎付近に、蒸気機関車を移設とした際の展示や活用方法について ・展示・活用方法を持続可能的に運営・保全していくための仕組みづくりについて
令和7年3月1日	第4回ミーティング
	・4つの観光誘致策に基づく鉄道ツアーについて ・道の駅るもい管理棟1階における鉄道発信の空間づくりについて
令和7年3月24日	市への提言書の提出

④ 道の駅るもい周辺における提言内容の全体像



「道の駅るもい」周辺に関する提案の全体像



■ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用

- ・ ヴィレッジエリアA（廃線跡）における鉄道遺産の活用について
- ・ D61形蒸気機関車の移設及び、移設後の持続的な維持管理と活用策について
- ・ 留萌の鉄道の歴史展示ゾーン、ミニSLの常設提案
- ・ 関連グッズの開発、販売

■ 提言（２）道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」における鉄道展示魅力施設化

■ 提言（３）留萌市全体及び近隣町村と連携した鉄道遺産を核とした誘客促進の提案

4 提言（1）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



I ヴィレッジエリアA（旧留萌駅西側廃線跡）における鉄道遺産の活用について（ハード整備）

【概要・目的】線路市場として整備することで、歴史が継承されることに加え、「線路の上を歩く非日常」や「世界的に有名な観光地」を演出し、道の駅の新たな集客エリア化をはかる。アウトドア拠点と将来の新交流複合施設がコンテンツでスムーズに接続され、人の流動を生む。

線路市場&トロッコ体験施設



- ・イベント用簡易テントを基本としたチャレンジショップとすることで初期コストを削減。
- ・設備を簡素にする代わりにカラフルなテントを配置することで、タイにある有名な観光・写真スポット「鉄道市場」を模

〔他事例〕台湾

- ・線路両脇に商店が並ぶ
- ・ランタン飛ばしが大人気。



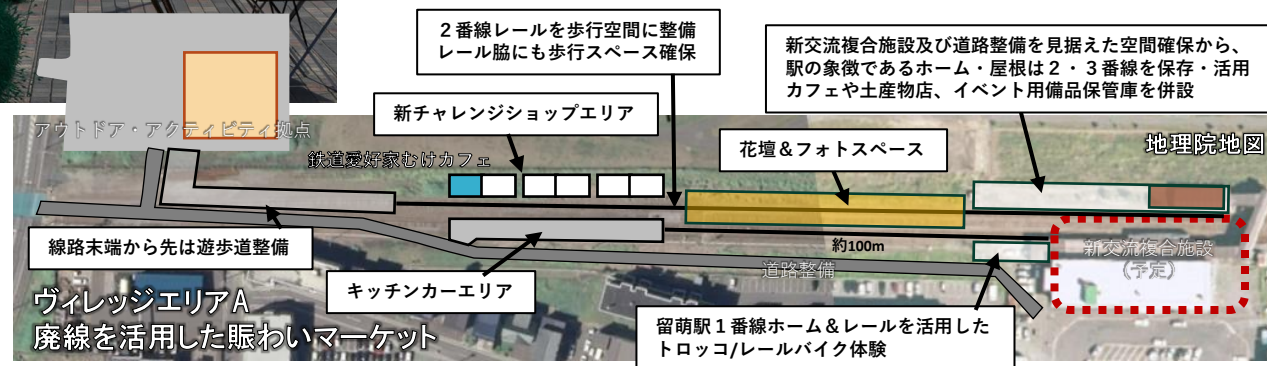
〔他事例〕タイ

- ・線路両脇に市場が並ぶ。
- ・世界一危険な市場で有名。



【主な整備内容】

- 線路両脇にレンガ調の遊歩道を敷設し歩行空間を整備
植物やモダンな街灯を設置し、歩きやすい空間を演出
- チャレンジショップスペースを線路両脇に移設し拡張
- トロッコやレールバイクといった体験型アトラクションを導入
- 新交流複合施設と線路市場がスムーズに接続される様、旧留萌駅2番線ホームを残し、観光施設として整備
- カフェや土産物店を併設



【見込まれる効果】世界的に写真映えで有名な観光地を参考にすることで話題性が高く、大きな集客力が見込まれる。

④ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



Ⅱ ヴィレッジエリアA（旧留萌駅西側廃線跡）における鉄道遺産の活用について（イベント）

【概要・目的】定期的にイベントを開催し、いつ来ても楽しめる空間とすることでリピーターを確保。北海道の定番観光スポット化をはかる。

■持続的な運営体制

・道の駅指定管理者もしくは観光協会がエリア運営に携わり、以下の通年事業やイベントの収益化により持続的な運営体制を構築。

イベント・事業	内容	実施時期	収益確保策
チャレンジショップ運営	市内・管内事業者が期間限定でショップを出店できる	年中	売上に対する一定歩合
キッチンカーエリア運営	事前申請により誰でもキッチンカーを乗り入れ・販売可	年中	エリア利用料
コンセプトカフェ運営	モンベル付近にご当地アイドル鉄女カフェを常設	年中	飲食店運営による利益
駅ナカカフェ＆土産物店	旧ホーム上にカフェ・土産物店を誘致。	年中	売上に対する一定歩合
トロッコ/レールバイク体験	ちやいるもに続く子どもむけコンテンツで子育て世帯を誘う	春～秋（積雪前）	体験料
願い叶え！ランタン飛ばし	広い船場公園を活かし、台湾のランタン飛ばしイベント開催	夏	ランタン販売売上
ルミナリエ、灯籠の鉄道	定山溪ルミナリエ、旧手宮線「雪あかりの道」	夏、冬	—
駅ホームで音楽フェス	ホームをステージにし、屋根のスピーカーを活かして開催	不定期	出演料、参加料
線路でビアガーデン	平らに整地した線路上にテーブルと椅子を並べ開催	夏（金夜、土日）	飲食提供による利益



ベンチから間近に見るSLは迫力満点



線路でビアガーデンイメージ



願い叶え！ランタン飛ばしイメージ（台湾十分、タイチェンマイが参考事例）

【見込まれる効果】来訪者へ提供するコンテンツが常に新鮮であり、リピーターを生むことができる。

4 提言（1）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



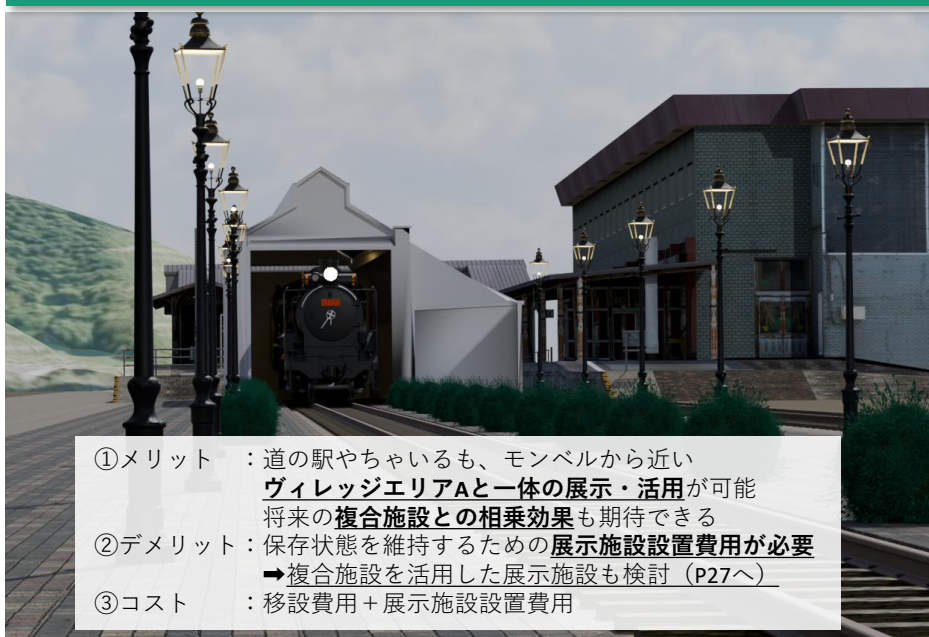
Ⅲ D61形蒸気機関車の「道の駅るもい」内への移設による相乗効果の創出

【概要・目的】誰もが知っている蒸気機関車の中で、全国でも希少価値の高いD61形を道の駅付近に移設することで、子供から大人まで、かつ鉄道愛好家も惹き込む道の駅の新たな集客コンテンツとし、さらにかつての鉄道の街を象徴するシンボルとして市民のアイコン的存在とする。

【移設設置における基本的な考え方】

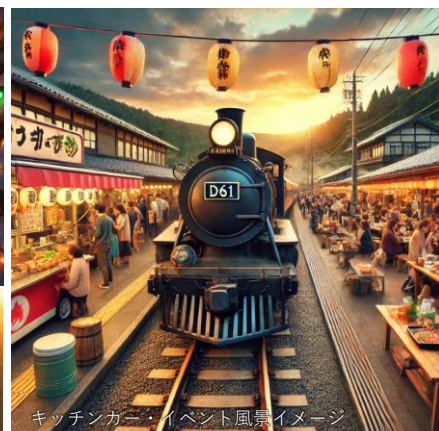
- ・展示物としての価値を維持し、人を惹き寄せるためには、保存状態が何より重要で屋内展示は必須。冬季も集客できることで希少性が高まる。
- ・鉄道本来の動的な姿を可能な限り演出できる展示形態（モーターカーによる移動、灯火類点灯、汽笛の稼働）が望ましい。

〔移設場所A〕旧留萌駅西側



■移設場所Aにおける活用

ヴィレッジエリアAを盛り上げる屋外展示	前照灯点灯、汽笛、蒸気再現により、海外のような現役の線路市場を演出。
ライトアップ	イルミネーションやプロジェクションマッピング等で冬季や夜間も集客
イベント・キッチンカー連結	D61をキッチンカーエリア前へ移動し、D61が視界に入る形で移動式カフェやサウナを営業
花いっぱいデコレーション	花の日に合わせてD61を花壇&フォトスペース中心に移動し、デコレーション



画像は雰囲気伝えるイメージだが、イベントの中心に蒸気機関車があるということの存在感是非常に大きくイベントを盛り上げる効果は絶大。



④ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



Ⅲ D61形蒸気機関車の「道の駅るもい」内への移設による相乗効果の創出

【概要・目的】誰もが知っている蒸気機関車の中で、全国でも希少価値の高いD61形を道の駅付近に移設することで、子供から大人まで、かつ鉄道愛好家も惹き込む道の駅の新たな集客コンテンツとし、さらにかつての鉄道の街を象徴するシンボルとして市民のアイコン的存在とする。

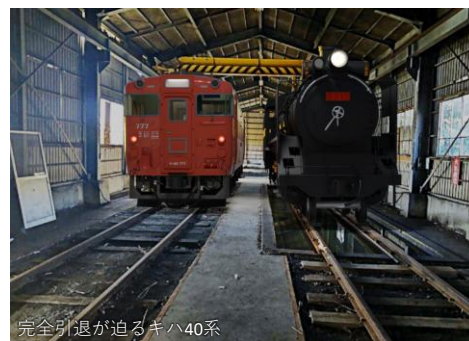
〔移設場所B〕旧留萌駅東側引き込み線車庫内



- ①メリット：既存車庫を転用できコスト面で有利
車両下へ潜ることができ魅力アップ
2線分あり将来的な他車両の展示も可能
- ②デメリット：道の駅やアウトドア拠点から遠い
- ③コスト：移設費用のみ

■移設場所Bにおける活用

屋外展示	前照灯、汽笛、蒸気再現により、他の展示との差別化をはかる。ポイントや旧留萌本線の一部を残すことで多様な場所での展示が可能
ラッセル車による除雪体験	車庫の2線目に廃車となった駅構内用の簡易ラッセル車を保存。除雪運転体験を実施
他車両との並列展示	将来的に留萌本線で活躍したディーゼルカーを車庫の2線目で保存することで鉄道遺産展示の魅力と集客力の向上をはかる



完全引退が迫るキハ40系



モーターカーのラッセル車イメージ

【D61形蒸気機関車の移設による見込まれる効果】

- 〔A〕 蒸気機関車を常にイベントの中心に配置し、その姿を多彩に変化させる活用方法は希少で、アイコン的な存在としての存在感が抜群なことから、集客力をさらに高める相乗効果を発揮。
- 〔B〕 コストを抑えながら道内の他の鉄道展示物とよりも質の高い展示が可能。道の駅るもい内において、より広範な移動を促すコンテンツとなるほか、車庫の2線目やポイントの活用により展示の幅が広がり、鉄道愛好家の集客力向上が見込まれる。



地理院地図

④ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレτζエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



Ⅳ D61形蒸気機関車の移設後の保守及び活用イベントについて

【概要・目的】保守のイベント化や定期的なイベント開催等により、地域住民に愛され、持続可能な保守体制が構築され、自走する仕組みを構築

■持続的な保守の担い手確保 ※屋内展示は施設整備費用が必要だが保守の手間が圧倒的に少なくなる（安平町D51：年●回）

- ・市内教育機関（幼稚園や小学校）の行事に保守作業を導入。市内教育機関間の横断的な部活・クラブ活動としての保守作業を展開。
- ・D61サポーター登録制度を設置し、保守作業参加回数をランキング化、殿堂入りした支援者を表彰、名前掲示することで、保守の価値化をはかり全国から担い手を確保。
- ・ふるさと納税の使途に保守費用を含み、返礼品には保守作業を含む留萌の鉄道遺産巡礼ツアー体験とすることで全国から財源を集める。
- ・市独自に「SLの日」を設定※、し、休暇取得を奨励。市民参加型のD61保守作業行事を実施。行事の浸透と通年化をはかる。

※D61にちなみ6月1日や、誕生（改造）した（1960年）10月3日、見晴公園に展示された（1974年）11月15日など

A・B共通の活用イベント	内容	実施時期	効果等
定時刻による汽笛発声	朝もしくは夕方方の一定時刻に汽笛発声（昼の防災サイレンと同様に時報の機能として）	毎日	SLの街としての希少性、留萌市民としての特別感や思い出を醸成
機関士コスプレ	模擬制服を設置し自由に着用して運転席で記念撮影	毎日	SNSによりコストをかけずに情報発信
ペンキ塗り殿堂ランキング	D61サポーター登録制度、保守参加回数をランキング化しD61内及びweb上でランキングを掲示する	保守作業年1回	参加者はD61形への愛着が沸き、継続的な保守担い手となる
ヘッドマーク（HM）掲示	市内鉄工所と連携したオリジナルHM制作をセットとした記念日HM掲示や、保有する自慢のHMを1日掲示する。	指定日	HM制作も含め1日掲示する権利を商品化し、維持費を確保
元国鉄マンによる語り部	D61を前に留萌の鉄道の歴史や思い出を語るイベント	指定日	市への理解や魅力を広く浸透
幸せの金箔SLづくり	タイル像同様にSLを縁起物とし訪問者が1カ月かけて完成させる	6月	金箔販売収入の確保、聖地化
ボイラーの活用①	燻製を製造・販売、ワインや日本酒を寝かして販売	春～秋	「蒸気機関車のボイラー内」という付加価値による物販売上増
ボイラーの活用②	冬キャンパー向けに焼き芋の販売や、SLで沸かしたお湯の提供	冬	
SLと綱引き	綱引き大会として人力で屋外展示	SLの日	市民のD61形への愛着を醸成
実物大運転シミュレーター	D61前方に巨大スクリーンを設置、運転席の各機器と連動	屋内展示時	大宮鉄道博物館に次ぐ希少性

【見込まれる効果】予算や人的資源を最小限に抑えながらD61形蒸気機関車を維持、活用し続けることができる。さらに、懐かしい蒸気機関車の姿や音によって高齢者を中心に市民の活力（汽笛に合わせた規則正しい生活や散歩運動の誘発等）になる。

④ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



V 留萌の鉄道の歴史展示ゾーンの整備提案

【概要・目的】かつての鉄道の繁栄を象徴する副港橋への市民の想いは強く、留萌本線・臨港線の存在を伝える鉄橋エリアに鉄道の歴史ゾーンとして新たに展示施設を整備することで、歴史の承継とともに道の駅のコンテンツ拡充をはかり、より一層の滞在型コンテンツ化をはかる。

鉄道の歴史展示施設整備

- 鉄道模型ジオラマによるかつての留萌駅及び市内路線の再現
- 過去の写真や鉄道遺産の展示
- JR東日本・音楽館と連携したVR鉄道シミュレーターの設置
（留萌本線運転シミュレーターは既に販売中）
- 臨港線のガンガン音、踏切の警報音が聞こえる仕掛け
- 鉄道グッズ販売コーナー
- D61形サポーター制度・鉄道遺産保存会（るもてつサポートメンバー）運営事務局設置



※ハード整備は予算が必要であるため古い倉庫の移設等を検討

ARによるタイムスリップ体験

- 鉄橋上にかつて走行したD61形、キハ22、キハ40、キハ54等のCGモデルを走行させ、現実世界と重ねて写真撮影が可能
- 指定時刻に臨港線が存在した時代の再現ARと施設内で鳴るガンガン音をシンクロさせ、過去へタイムスリップする体験イベント実施
- 同アプリでは、市内の鉄道遺産を巡るスタンプラリー機能も実装

【見込まれる効果】失われていく市内の鉄道の歴史を模型や写真、デジタル技術で未来へ承継。滞在型観光地としてのコンテンツ拡充。



完全に使われなくなった副港橋にスマートフォンをむけると、SLが！？デジタル技術でタイムスリップできる新たなフォトスポットが誕生！

3 DCGモデルとARを活用すると列車同士の驚きの競演も演出可能



④ 提言（１）「道の駅るもい」ヴィレッジエリアAを中心とした「鉄道遺産」の活用提案



Ⅵ 道の駅全体の収益アップに向けた関連グッズの開発提案

【概要・目的】道の駅るもいにおける「稼ぐ観光」の実現にむけ、関連グッズの開発・販売を行い収益確保をはかる。

親和性が非常に高い「鉄道」×「食」

留萌・羽幌線沿線駅弁復刻

- 旧留萌本線留萌駅、羽幌線幌延駅の駅弁を飲食店や食品製造事業者と連携し復刻。チャレンジショップや土産物店にて期間限定販売。
- ホーム跡上で駅弁売り子による模擬販売イベントを開催。



地元銘菓と連携した土産品開発

【地元銘菓の看板商品】

- 大判焼き
- まんじゅう
- クッキー ○プリン



D61形蒸気機関車ボイラー内製造シリーズ

- SLのボイラーで製造した燻製シリーズ
戦前に製造された釜に、駆け巡った日本中の空気と石炭が蓄積された環境で燻す深い味わい。
- SLのボイラーで寝かせたお酒シリーズ
蒸気機関車のボイラーを天然のワインセラー、日本酒蔵にするという珍しさで希少価値を創出。
- その他のSLのボイラーの活用
冬のキャンパー向けに焼き芋や、水を沸かしてお湯を提供。



知的な興味を惹く「鉄道」×「教育」

子どもむけ教材の開発

- 幼少期からD61形への愛着を育てるため、「飛び出す絵本」や「留萌の鉄道の歴史」「D61の希有な人生」制作。

ダークツーリズムの観光資源化

- 旧沿線において発生した「炭鉱・鉄道・港」にまつわる事件や事故等を取りまとめた本や展示を制作。

アウトドア拠点との融合「鉄道」×「モンベル」

D61形関連アウトドア用品開発等

- 動輪ロゴが入った留萌限定のアウトドアグッズ
- 廃線のレールを溶かして素材にしたアウトドアグッズ
- D61形を活用した各種イベント時のセール開催



整地化に必須「鉄道」×「キャラクター」

フィルムコミッションPR

- 「道の駅るもい」と「D61」がアニメや映画、ドラマの舞台となるよう働きかける。
- アイドル、インフルエンサーとのコラボレーション企画の展開
- 地元SLアイドルの養成、イベント開催

ブランドとのコラボレーション

- 知名度が高いゆるキャラ（カズモちゃん等）とのコラボレーショングッズの販売
- D61形チョロQやガンダムプラモデルといった大手製品とのコラボレーション
- 廃線のレールを溶かして素材にした大手メーカー腕時計

【見込まれる効果】唯一無二の商品開発により、訪問者だけでなく、通信販売やウェブの需要も伸び、収益の多角化をはかることができる。

⑤ 提言（２）道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」における 鉄道展示魅力施設化



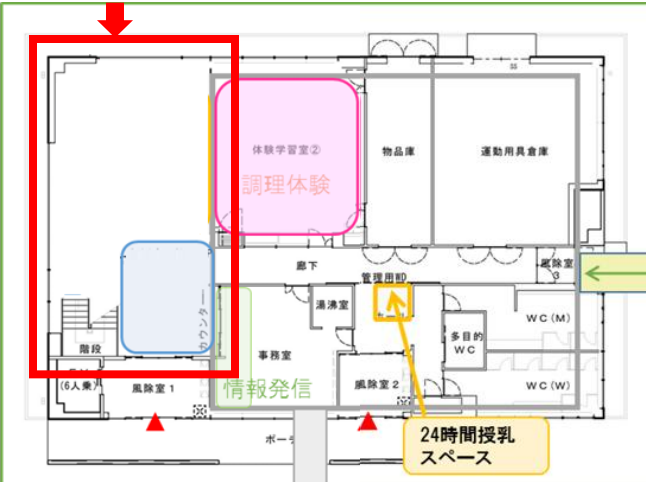
道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」の鉄道コンテンツ化の提案

【概要・目的】「るしんふれ愛パーク」には旧留萌駅のそば屋「むさし家」が営業していることから、同施設全体を旧留萌駅を彷彿させる場所とすることで鉄道コンテンツ化し、集客力向上をはかる。鉄道コンテンツ化にあたっては海のふるさと館に保管されている遺産を最大限に活用。



【CGによるイメージ図】

旧留萌駅の思い出再現ゾーン



海のふるさと館所蔵品



旧留萌駅備品



駅の雰囲気再現するため一般利用者が“駅”を想像する備品を中心に装飾する。

【見込まれる効果】「道の駅るもい」の魅力向上。「るしんふれ愛パーク」の集客力向上。市民の思い出の保存と歴史の伝承。

5 提言（2）道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」における 鉄道展示魅力施設化



道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」の鉄道コンテンツ化の提案

■旧留萌駅舎内再現ゾーン

液晶画面に発車案内システムを表示
 当時のダイヤとリアルタイムで連動

駅一時計
 （必須アイテム）

留萌駅周辺ジオラマ

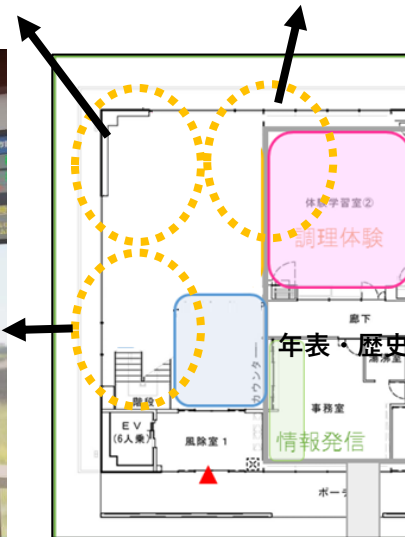
国鉄時代の
 駅スタンプ再現

子どもむけ線路の絵

【CGによるイメージ図】



■旧留萌駅ホーム再現ゾーン



るしんふれ愛パーク北側

【さらに駅を感じる仕掛け】
 当時の時刻表に合わせ、列車案内電
 光掲示板画面の表示が切り替わり、
 のりば案内が連動して点灯、スピー
 カーからアナウンスや列車の音が鳴
 る仕組みを構築。現役の留萌駅をさ
 らに演出。
 期間限定で国鉄時代も再現。

⑤ 提言（２）道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」における 鉄道展示魅力施設化



道の駅るもい「るしんふれ愛パーク」の鉄道コンテンツ化の提案

♪ まもなく深川行き普通列車が発車いたします
♪ ファーン（汽笛）、ゴーゴゴ（エンジン音）



中心に配置している国鉄駅椅子に座った場合のそばView

♪ただいまから増毛行き普通列車の改札を開始します。
ご乗車のお客様は1番線でお待ちください。



窓側のJR駅椅子から振り返った場合のそばView



I 留萌市内点在する鉄道遺構を活用した市内観光周遊の提案

【概要・目的】既存の観光施設やコンテンツと組み合わせることで、鉄道遺構と相互に魅力を高める。鉄道愛好家だけではなく日帰り観光で訪れた一般観光客や市民が楽しめる観光周遊ルートとする。

ロゲイニング×鉄道

- 想定客層：カップル、ファミリー
- 周遊時間：2時間程度

【内容】

- ・観光協会で行っているロゲイニングの仕組みを活用し、市街地から郊外に点在する**鉄道遺構を新たなチェックポイント**として追加
→→→『**るも鉄ロゲイニング**』
- ・道の駅るもいをスタート・ゴールとして、D61や副港橋、鉄橋、踏切跡など鉄道遺構と共に既存のチェックポイントを巡る
- ・獲得点数に応じて「**提言1-4**」の**グッズを景品として贈呈**

【拡張性】

- ・徒歩以外に**電動レンタサイクルや電動キックボード**などを活用して郊外の鉄道遺構（藤山や幌糠）を巡ることもできる
- ・旧増毛線の鉄道遺構もチェックポイントとして追加
- ・**留萌市の炭・鉄・港にまつわるチェックポイント**を追加



海水浴×鉄道

- 想定客層：カップル、ファミリー
- 周遊時間：3時間程度～1泊

【内容】

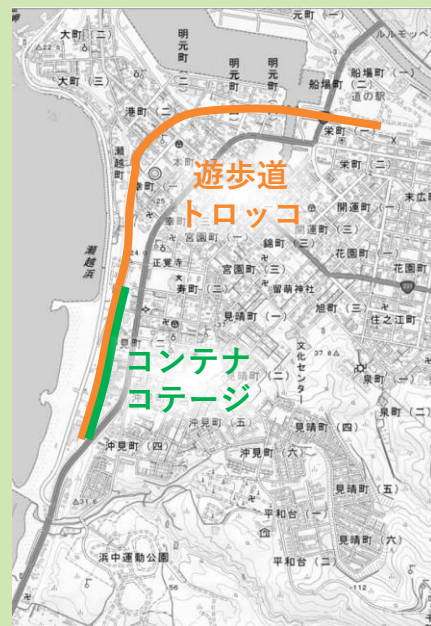
- ・ゴールデンビーチるもい付近には**旧瀬越駅**を含めて線路跡が残っているので、道の駅るもいから**線路を歩けるように整備**したり、**トロッコ体験**ができるように整備を検討
- ・道の駅るもい⇄ゴールデンビーチの移動経路が新たな**アクティビティ**となる

【拡張性】

- ・海岸線の線路跡に貨車に見立てた**コンテナ**を設置し、**コテージ**として**泊まれる場所**にする。アウトドア観光やワーケーションの受け皿として、潜在的な宿泊需要を満たす



コンテナコテージの例



【見込まれる効果や解決する課題】

既存の観光資源に、鉄道遺産をプラスすることで、街なかへの誘客や滞在時間の延長につながる付加価値を加える。



I 留萌市内点在する鉄道遺構を活用した市内観光周遊の提案

【概要・目的】既存の観光施設やコンテンツと組み合わせることで、鉄道遺構と相互に魅力を高める。鉄道愛好家だけではなく日帰り観光で訪れた一般観光客や市民が楽しめる観光周遊ルートとする。

学び×鉄道

- 想定客層：シニア、ファミリー
- 周遊時間：4時間程度

【内容】

- ・増毛駅、留萌駅、藤山駅、幌糠駅など**ステーションめぐりスタンプラリー**の実施。各駅には**子供の自由研究**のヒントになるような素材を置いてもらい、**増毛線、留萌本線の鉄道遺構を巡り、一日で自由研究が完成するような仕掛け**を作成
- ・道の駅るもい周辺の鉄道遺構、関連グッズを活用した**体験コーナーを整備**（旧留萌駅の事務所で、**ポイント切替体験**や**タブレットの玉入れ体験**、**制服の貸出**など）
- ・学芸員や旧国鉄マンがガイドとなり、鉄道や街、港など留萌市の歴史を解説しながら市内を巡る**ミニバスツアー**を実施
- ・**プラタモリの誘致**



例) ポイント転載機



タブレット



食×鉄道

- 想定客層：すべて
- 周遊時間：1時間程度

【内容】

- ・JRや国鉄時代から**鉄道関係者や乗客に親しまれていた「食」**をPR
- ・むさし屋・・・旧留萌駅の立ち食いそば屋
ニシン親子弁当
- ・ときよし食堂・・・国鉄マンが就業後に立ち寄るお店だった
- ・大判焼・・・留萌駅を降りたらまず豚ちゃん焼きを買うという文化があった
- ・
- ・地元銘菓と連携した**新たな鉄道土産品開発「提言1-4」**



【見込まれる効果や解決する課題】

既存の観光資源に、鉄道遺産をプラスすることで、街なかへの誘客や滞在時間の延長につながる付加価値を加える。



Ⅱ 近隣市町村と連携した観光客誘致策の提案

【概要・目的】鉄道遺産を活用したに観光誘致策により、新たな来訪者とリピータを獲得する鉄道ツアーパッケージの提案

鉄道遺産を活用した観光誘致策

ターゲットとする顧客層を4つに分類し、それぞれの層で活用できる鉄道資源や実施時期、価格帯などを設定し、鉄道ツアーの内容を検討

鉄分	顧客層	主な鉄道資源、観光資源	実施時期	ポイント	価格帯	ツアータイプ
高 ↑ ↓ 低	マニア層 (道内・国内に200万人市場)	○鉄道に特化した内容 ・留萌本線、増毛線、羽幌線 D613 ・留萌鉄道築港線 ・天塩炭鉱鉄道、留萌鉄道 ・鉄道供食（にしん親子弁当、にしんそば）	早春、晩秋 (原っぱと廃線跡)	・通年で個人客が訪れる ・充実した資料館 ・地元民しか知らない情報	価格は高くてもOK	マニア特化型
	ファン層 (道内・国内・訪日)	○鉄道に関連した街巡り ・留萌市は交通の要衝であった ・近隣市町村との連携 ・留萌管内各町村、沼田町、深川市	札幌、旭川発着 1泊2日バスツアー	・近隣市町村を巻き込んだ企画力 ・地元ガイド	高額商品	市町村連携型
	中間層 (札幌や道内、一般から中高年)	○鉄道（メイン）＋観光（サブ） ・留萌本線、増毛線、羽幌線 D613 ・にしんそば ・海水浴など市内外の既存観光スポット	春～秋の週末 (行楽適期)	・企画力の維持 ・話題性 ・地元ガイド	中価格	まち歩き型
	ゆる鉄層 (一般オールマイティファミリー、カップル)	○鉄道＋食＋イベント ・留萌本線、増毛線、羽幌線 D613 ・日本一のかずの子、寿司、豚ジスカン、海鮮 ・かずの子のマチ留萌フェスタ、うまいよ！るもい市など	イベント連動	・留萌神社祭や吞涛まつり、オロロンサマーフェスタなどの夏イベント ・情報発信が大切	安価	観光型

6 提言（3）留萌市全体及び隣接自治体と連携した鉄道遺産を核とした誘客促進の提案



II 近隣市町村と連携した観光客誘致策の提案

【概要・目的】鉄道遺産を活用したに観光誘致策により、新たな来訪者とリピータを獲得する鉄道ツアーパッケージの提案

マニア・ファン層向け 鉄道ツアーパッケージ

ツアー名	留萌・増毛・羽幌 三線沿線連携廃線跡街歩きツアー	ターゲット顧客層	開催時期	ツアーエリア
ツアーコンセプト	各地の語り部による、歴史や思い出などの解説シャワーを浴びまくる。インターネットにはない生きた情報をゲットせよ！	マニア・ファン層 中高年、インテリ層	6月～7月	留萌市、増毛町、小平町、 苫前町、羽幌町、初山別町、沼田町
旅行日程表 ■ 1日目 08:00 札幌発 貸し切りバス（沿岸バス） 11:00 旧増毛駅着 旧増毛駅、国稀酒造の見学 [地元ガイド] 12:00 まつくら 昼食 13:30 道の駅るもい着 道の駅るもい周辺の鉄道遺産を街歩き 「提言1」「提言2」（副港橋、D613等） [留萌市学芸員] 16:00 黄金岬 インガニ釣り、夕陽見学 18:00 沼田ほろしん温泉（泊） 留萌鉄道、クラス15号蒸気機関車の見学 [地元ガイド]		■ 2日目 08:00 石狩沼田駅 見学 [地元ガイド] 09:30 小平町達布着 達布炭鉱見学 [地元ガイド] 11:00 道の駅おびら鯨番屋 見学、昼食 13:00 苫前町郷土資料館 見学 14:30 羽幌炭鉱 見学 [地元ガイド] 16:30 初山別町 羽幌線鉄橋跡 見学 鉄橋跡と夕陽 17:00 初山別町発 21:00 札幌着		
ツアーの押しポイント 札幌羽幌会のレジェンド達を巻き込んだ、参加しないと得られない価値ある記憶遺産に触れる		宣伝と販売促進方法	TV・有名人に紹介してもらい、ターゲットピラミッドのトップを確実に押えてシャワー効果で裾野を広げていく	

【見込まれる効果】各地の語り部を地元ガイドになる貴重な機会がツアーの付加価値を高め、ファンの獲得につながる



Ⅱ 近隣市町村と連携した観光客誘致策の提案

【概要・目的】鉄道遺産を活用したに観光誘致策により、新たな来訪者とリピータを獲得する鉄道ツアーパッケージの提案

中間層向け 鉄道ツアーパッケージ

ツアー名	手ぶらキャンプ ～るもいの鉄道とグルメを食べる～	ターゲット顧客層	開催時期	ツアーエリア
ツアーコンセプト	道具や器具を用意せずに気軽にアウトドアを楽しめる2日間 鉄道と歴史に触れて、地元の海鮮・果物・地酒を食べる	ファミリー、 友人同士のグループ	7月～9月	留萌市、増毛町
旅行日程表				
■ 1日目 09：00 札幌発 貸し切りバス or 自家用車 12：00 増毛着 昼食、果樹園でくだもの狩り 15：00 ゴールデンビーチるもい着 海水浴やSUP 夕陽 17：00 ビーチキャンプ or 線路跡のコンテナコテージ（泊） 「提言3-1」 18：00 夕食 浜焼きBBQ or 市内飲食店（バス・タクシー送迎）		■ 2日目 08：30 ゴールデンビーチるもい発 09：00 道の駅るもい 『るも鉄ロゲイニング』に参加（徒歩、サイクリング） 「提言1」「提言2」「提言3-1」 ※市内で使えるクーポンを参加者に配布 ※市内で昼食 13：00 道の駅るもい発 13：30 増毛着 旧増毛駅、国稀酒造、旧商家丸一本間家 見学 15：00 増毛発 18：00 札幌着		
ツアーの押しポイント	手ぶらで気軽にキャンプ ロゲイニングを通して、D613など鉄道遺産に触れる 道の駅るもい周辺にできたミニSLや展示施設を見学	宣伝と販売 促進方法	インフルエンサーによるプレツアーを実施しSNSで拡散 ラジオや雑誌による情報発信	

【見込まれる効果】アウトドアとの相乗効果により、一般層にも鉄道の魅力を広めるとともに街なかへの誘客が見込まれる

7 実現にむけたロードマップ



	提言（１）	提言（２）	提言（３）
令和7年度	○新交流複合施設 ・基本構想・基本計画策定 ・基本設計着手 【鉄道市場】 ・ヴィレッジエリアAの設計 ・線路上の歩行空間・花壇の整備 ・チャレンジショップの需要調査 【D61移設】 ・移設場所の決定 ・移設費クラウドファンディング 【鉄道の歴史ゾーン】 ・整備検討、アプリ開発設計	・改装内容の検討 ・海のふるさと館から順次、鉄道遺産の運び込み ・映像、写真、音声の収集 ・液晶画面・のりば案内・スピーカー連動機能設計、開発 ・実物大キハ40設置	【ロゲイニング×鉄道】 ・チェックポイントの設定 ・試走会、プレイベント 【学び×鉄道】 自由研究資料作成 【食×鉄道】 PR資料作成、配布 ・ツアーパッケージの情報収集及びルート、コンテンツの作成
令和8年度	○アウトドア・アクティビティ拠点 ・施設完成 ○新交流複合施設 ・基本設計策定 【鉄道市場】 ・チャレンジショップ、キッチンカーエリアの設置、トロッコ調達 ・イベントの開催、グッズ開発 【D61移設】 ・D61移設・整備、モーターカー調達 ・イベントの開催、グッズ開発 【鉄道の歴史ゾーン】 ・施設・アプリ開発リリース	・改装オープン	・道の駅るもい⇄ゴールデンビーチ間の遊歩道整備 ・るも鉄ロゲイニングの常時実施 ・鉄道体験コーナーの設置 ・解説付き市内バスツアー実施 ・ツアーパッケージの試験実施 ・留萌駅解体前にブラタモリ誘致
令和9年度	【鉄道市場】 ・各種イベントの開催 ・グッズ販売 【D61移設】 ・各種イベントの開催 ・グッズ販売 【鉄道の歴史ゾーン】 ・施設整備		・ツアーパッケージの本格運用 ・るも鉄ロゲイニングのチェックポイント追加拡張 ・市内バスツアーの実施
将来	○新交流複合施設 ・設計、建築工事（時期未定） ・完成、共用開始（時期未定） ・ヴィレッジエリアAとの接続 ・交流空間と連動した各種イベントの開催		・瀬越駅付近にコンテナコテージ設置 ・ロゲイニング、各ツアーの実施

インフルエンサーを活用したPR

インフルエンサーを活用したPR

⑦ 実現にむけたロードマップ (鉄道遺産の持続的な保存と活用に向けた組織と財源確保策)



〈事業収入以外の財源確保策〉

クラウドファンディングの実施

○D61形移設費用等は鉄道愛好家の関心が高いことから、クラウドファンディングの活用を検討。将来的な活用ビジョンと魅力的な返礼品で達成をめざす。実施スケジュールは水産物が本州に人気であることから秋に完了し、返礼品を年末までに届ける日程。

【返礼品（案）】

- ・先着順で第●代留萌駅長、助役を任命し、旧留萌駅風に改装した「るしんふれ愛パーク」に一定期間掲示。加えて、名札をしていると、施設スタッフから駅長と呼ばれ、敬礼される。
- ・寄付額に応じたランク認定とサポーターバッジの贈呈
- ・寄付者の顔写真を使ったD61形モザイクアートの制作・掲示
- ・D61形鉄道模型やポストカード
- ・駅構内の廃レール輪切りに「D613」と「寄付者名前」を刻印
- ・数の子等水産物（関西に大人気）

市のふるさと納税、継続事業化、地元企業との連携

- 留萌市予算事業化
- DMOの創設と国や道のDMO関連支援事業の活用
- 金融機関等の地域応援ファンドの活用
- ふるさと納税の使途に含む、返礼品開発
- D61形や各施設内における広告掲示権を市内企業へ販売
 - ・旧留萌駅風広告枠、D61形展示場内、ヴィレッジエリアA花壇等

「鉄道遺産保存会・るもてつサポートメンバー」の継続

- るもてつサポートメンバーを継続し、コアメンバーを、地域おこし協力隊、市民ボランティアで構成する保存会に転換。全国から正会員、ファン会員を募る。
- 会費制とすることで継続的な収入を確保する。
- 会員確保のため、会員限定グッズの定期的な開発・提供や、留萌の鉄道遺産を活用した独自企画の提案・実行を可能とする。

国の補助事業の活用

■国土交通省観光庁「地域観光魅力向上事業」

- ・補助対象：地方公共団体、DMO、民間事業者等
- ・補助額：**400万円まで定額（10/10）**、400万円を超える部分は補助率1/2（税抜）
- ・補助上限1,250万円、最低事業費600万円 ※税は補助対象外
自治体や観光協会負担100万円で600万円の事業実施が可能！
(税込160万円程度)

【公募期間】令和7年3月3日（月）～4月18日（金）

→観光庁の補助事業を活用することで、自己負担少ない形でソフト事業から着手できます！





ヴィレッジエリアA、留萌の鉄道の歴史展示ゾーンへと鉄道の連続性を確保するための1階D61形展示場設置提案

【概要・目的】新交流複合施設構想は、提言エリア内における新たな集客力を持つ拠点であり、将来的に密接な関係性を有することから、本提言内容と新交流複合施設との連携案を提案する。

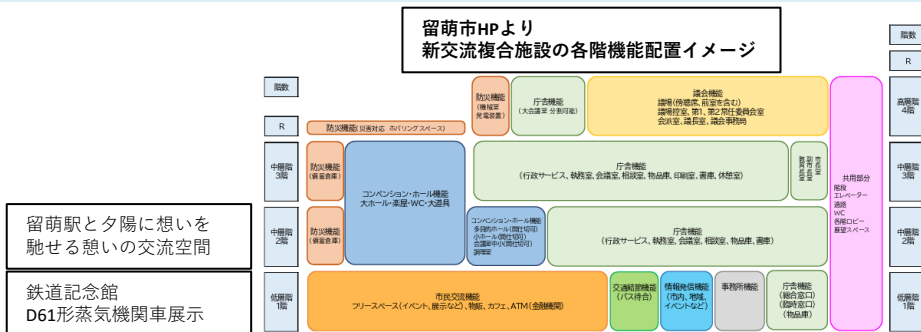
D61形移設A案における展示スペースの設置

○D61形移設A案は、ヴィレッジエリアAの賑わい創出の要となるため有力だが展示施設の新設が必要。そのため、新交流複合施設の1階市民交流スペースに2番線のレールを接続、ヴィレッジエリアA側に扉を設けることで、1階にD61形展示スペースを確保。

○鉄道記念館が併設された役場庁舎として珍しさから全国区へ発信

2階ヴィレッジエリアA側における鉄道施設演出

○2階のヴィレッジエリアA側には、駅の跨線橋に似せた窓配置とすることで、留萌駅があった時代を感じ、見下ろすことができる場所を設ける。夕焼け時やイベント時は絶好の写真スポットとなる。



1階市民交流スペースの展示



道の駅あびらD51ステーションをイメージ

2階から見たヴィレッジエリアA (イメージ)



留萌駅跨線橋からの眺めを彷彿させる情景が広がる

旧留萌駅舎解体前に住民むけお別れイベントの開催

駅舎アート、駅舎&ホームビアガーデン、コスプレ撮影会等
留萌を支えた駅へのお別れを市民全員で行うことで街への愛着増し！





アドバイザー 永山 茂 様 講評



■ るもてつサポートメンバーの発足と議論経過をつうじて

「鉄道遺構の文化的保全の活動には、愛好家的な感情だけではなく、その価値や保全の意義をしっかりと理解し合った集団を形成する事が不可欠である」旨を訴えた。

それに呼応して、市役所が中心となり呼びかけ「るもてつサポートメンバー」の会が公募結成され、未来を目指す趣旨に沿い活発な意見交換のできる素晴らしいメンバーの参集が実現した。

また「長期に亘る保全活動となると、その活動はボランティア頼みにすることなく、一定の責任感を有する組織として自立的な運営をして行く必要がある」と説明した。

各メンバーは活動意欲が高く、様々なアイデアを有し、他の発言にも耳を傾ける事が出来る素晴らしい資質を有しており、理想的なチーム構成となった。

また伴走支援として実施したアドバイスも十二分に反映されており、中長期に耐用できる内容の濃い提言となったと感じている。

■ 提言書の内容とこれからの留萌市における鉄道遺産や観光の可能性について

鉄道遺構等の文化的遺産群を観光資源として捉え、国内外の誘客に資する旅行商品化する事は、観光学の分類上「産業観光」と呼ばれる。

産業観光の領域は、安価大量一過性のブームのマスツーリズム的な「量の観光」とは一線を画しており、知的好奇心が高く一定の経済的余裕のある層などの、いわゆる「熟年インテリ層」からの支持が高いとされている。

またリピート性も高く、品質優先が求められる。観光インフラに恵まれているとは言い難い留萌市には、ストレスのかからない、適した旅行形態であるとも言える。

つまり「イベントなどにより一日に3000人の客を集めるより、一年中毎日10人がやってくるストレスの低い観光施策」が、当地には好影響を与える施策であると考えられる。

さらに今回のテーマは「鉄道遺構」がメインの議論であったが、将来的には、近隣市町村との連携を含め、「漁業・港湾・運輸運搬・石炭」などの産業観光の素材をテーマとした取り組みの広がり期待ができる一方、夏のアウトドアレジャーなど、期待の膨らむ未開発素材は多い。



永山 茂（1959年京都市出身）

（一社）北海道観光資源創造センター
代表理事

北海道鉄道観光資源研究会代表

【著書】

「日本一貧乏な観光列車」が走るまで。

「ながまれ海峡号」の奇跡（監修）

「北海道観光の現場から」HIEC

【表彰】

鉄旅オブザイヤー2016 グランプリ

第9回産業観光まちづくり大賞（銀賞）

READYFOR「クラウドファンディング」大賞

【その他】

拓殖大学北海道短期大学観光学非常勤
講師 11年間

街の発展を支えてきた鉄道の歴史を継承し、
鉄道遺産を活用した新たな留萌の拠点をつくることで、
留萌市民のみなさんが街へさらに愛着を持ち、交流が盛んになるとともに
通過型から滞在型観光地へ転換し「稼ぐ観光」で地域経済の再活性化をはかり、
未来に渡って住みつづけたい「留萌」をみなさんと実現していきましょう。



タイで人気の「鉄道市場」同様に鉄道跡地で再び賑わいを取り戻す。



るもてつサポートメンバー
2025年3月24日